

2019 年度 LA セミナー ダイジェスト

棚から論文！？悩める学群生や修士院生への論文セミナー "How to write a thesis"

論文作成支援として、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（以下 LA）によるセミナーが 10/9 に開催されました。LA の KOMAKI がその様子をお伝えします。

卒業論文の執筆はほとんどの学群で卒業要件となっています。しかし、論文の書き方について経験者から学ぶ機会は多くありません。そのためか、「卒論って、そもそも何をすれば良いの？」、「何から手をつければ良いの？」という質問を良く聞きます。

そこで、論文執筆に不安を持つ方向けに、執筆のヒントとして経験豊富な現役大学院生の LA がセミナーを開催しました。加えて、今回は大学院生も他の院生と論文執筆に関する情報を共有する機会が決して多くないという LA の経験を踏まえ、大学院生にも対象を広げました。

第 1 部 理系院生の論文の書き方

論文の構成、先行研究の検討方法など論文執筆の基礎的な内容を丁寧に説明していました。それだけでなく、彼の発表には多くの教訓が含まれていました。卒論提出前にデータが消えてしまった経験（それゆえ、データのバックアップが必要！）や、「たまたま上手くいってしまった」実験結果を信じすぎたことによってプロセスの問題を無視してしまっただけの経験（このため、結果を盲信しないことが重要！）を恥じることなく伝えていました。カタイ言葉だけでなくユーモアも交えた彼の発表は、参加者をひきつけていました。



講師 LA：KINAMI

第 2 部 文系院生の論文の書き方

フィールドワークを素材とした論文執筆の基礎を盛り込みながらも、学生の気持ちに寄り添った発表でした。「先行研究が多くて読めない！」、「論文を書くのがつらい」、「フィールドに入って大丈夫かな？」という学生が抱えがちな不安に正面から向き合い、先行研究を楽しく読むコツや自身がどのようにつらい状況を乗り越えたのか話してくれました。自身の経験や関心を可能な限り伝えてくれたため、特に問いの設定が難しい文系の論文執筆に際して参考になる発表だと感じました。



講師 LA：HATA

第 3 部 ディスカッション・質疑応答

想定以上に多くの学生の参加があったため、全員参加のディスカッションは叶いませんでしたが、活発な質疑が繰り返されました。たとえば、「英語論文を読むのが不安だが、どうしたらよいか」という問いに対して、「とにかく読むと分かるようになる」、「Google 翻訳を用いると読みやすい」といった、異なる角度から応答がありました。院生が多くいる場だったからこそ、悩みを共有し、いくつかの解決策を検討することができたと考えます。



学生サポートデスクでは、LA が悩める学生の学習をサポートします。
論文執筆で困ったら学生サポートデスクへ！（学期中の平日 14:00-19:00）

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/support/la>

